

第5回 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト 報告

米山奨学委員会 委員 **吉 馴 茂 子**
(大阪アーバンRC)

日 時：2014年11月8日(土) 13:00～16:00
場 所：ホテルニューオオタニ
審 査 員：若林PG、岩田PG、磯田研修委員、近藤委員長、デュネス学友会員
地区委員：近藤委員長、福田副委員長、田中副委員長、西谷委員、北山委員(司会)
島井委員、三木委員、堀委員、岡部委員、鹿浦委員、石井委員、吉馴各委員
出 席 者：2014奨学生24名、カウンセラー14名、学友会10名、クラブロータリアン26名
PG2名、地区委員12名
出 場 者：2014年奨学生10名 スピーチ1人7分

スピーチが始まると先ず奨学生達のスキルとしての日本語の上達力に驚かされ、やがてすぐ会場の全参加者が緊張に包まれ聞き入ることになったのです。学生達は種々の抱負や不安を胸に一人で日本に渡ってきたのです。そして米山奨学生になって今は秋、年の前半を終えて、少し落ち着いた所になります。

日本での生活、人間関係、ロータリークラブ、日本、世界、自国そして今後の自分の生き方に及ぶスピーチ内容には、清新なレベルの高さが感じられ場面もあり、感動やワクワク感もあつたりで思わず時間が過ぎたのです。

1人の学生が米山奨学金に感謝する一つの理由

として、奨学金を口座振り込みでなく毎月クラブ例会参加で手渡される事をあげました。例会では、カウンセラーを始め ロータリアンの皆さんと毎回色々懇話ができ、世話クラブでは、歓迎会や青少年養成クラブにも入れて頂いたりしている中で、自分はやがて日本にいる間にリーダーシップ力を育てたいと考えた様になったとのスピーチがありました。

この様な若い力の育成に米山奨学金やロータリークラブ、更に日本人の品格が大きく関わっている事が重く感じられ感動致しました。

「一粒の麦もし滅せざれば」生涯に亘って米山奨学会の理想と親善、そして何より日本人の誠意を時折思いだして頂き、どうか栄えある人生を!

- 【表彰式】 最優秀賞 馬 惠英(台湾) 「目に見えないものを大切に」
大阪スクールオブミュージック 世話クラブ：大阪咲洲RC
優 秀 賞 張 雪晴(中国)
「米山奨学生として感じた事～私の小さな異文化体験」
大阪ハイテクノロジー専門学校 世話クラブ：大阪ネクストRC
岩田特別賞 朴 商云(韓国)「それでこそ米山奨学生」
摂南大学 世話クラブ：香里園RC
若林特別賞 ラマナナリボ ミハリフィデラナ(マダガスカル)
「米山奨学金を選んだ理由と米山奨学生として感じたこと」
大阪大学 世話クラブ：摂津RC

